平成28年度予算審査報告

予算審査の流れ

専門委員会単位

①事前書面審査

第１専門委員会 ／ 第２専門委員会 ／ 第３専門委員会

委員会全体

②一般会計歳入審査

専門委員会単位

③歳出審査

第１専門委員会	第２専門委員会	第３専門委員会
●質疑 - 審査対象部局 - ○議会事務局 ○企画総務部 ○選挙管理委員会事務局 ○監査委員事務局 ○環境課を除く市民環境部 ○教育委員会 ●④自由討議	●質疑 - 審査対象部局 - ○市民環境部環境課 ○健康福祉部 （特別会計歳入含む） ●④自由討議	●質疑 - 審査対象部局 - ○経済産業部 ○農業委員会事務局 ○都市整備部 ○上下水道部 （特別会計歳入含む） ●④自由討議

委員会全体

専門委員会の審査報告

⑤総括的審査

総括的質疑の内容はP6へ

討論

採決

本会議

予算決算常任委員会の審査結果報告

⑥討論

討論の内容はP6へ

採決

①事前書面審査

今回の予算審査にあたっては、日ごろの議員活動や議会報告会、市民懇談会等で寄せられた市民の意見を十分に踏まえて行いました。

そのため、市当局に対する審査の前段階として、論点整理や質問項目の整理を行いました。

この作業の目的は、皆さまから寄せられたご意見を参考に、何が課題なのかを整理し、さまざまな視点から審査を行うためです。

【事前書面審査の方法】

①初めに、市民の意見等を十分に踏まえ、審査を行う議員ごとに質疑の項目や内容を発表しました。

②発表した内容をホワイトボードに書き出し、どの項目の質疑が多いのかを確認しました。

③質疑が多い項目について、質疑の内容を議員ごとに発表し、視点や論点を整理しました。

議論した事前書面審査の一部をご紹介します。

●ふるさと納税推進事業について

・現状の確認と改善点

・今後の在り方や位置づけ

●地区コミュニティセンター管理運営事業について

・住民自治日本一との整合性

・地域を自立的に支援していく方策

・各地域の集会所等との公的負担のバランス（公平性、配分）

●放課後児童健全育成事業について

・施設（ハード面、保護者負担と税負担の公平性、制度変更における学童の在り方

●環境保全対策事業について

・総合計画のビジョンと減額予算との整合性

●滝沢市シルバー人材センター補助事業

・今後の育成方針

●新規就農対策事業

・計画の最終目標は

②一般会計歳入審査

一般会計歳入の審査は、議長を除く18名の議員で構成する『予算決算常任委員会』において全員で審査しました。

歳入は、皆さまから納めていただく大切な税金など、市に入ってくるお金に関する予算です。主に質疑を通じて、市の考え方や取り組みなどについて審査しました。

質疑及び答弁の内容の一部をご紹介します。

問　個人分市民税が増額となっている理由は。

答　年金所得以外の所得が伸びる予想で、増となる分の約9割が給与所得です。

問　新規の生活困窮者自立支援事業等負担金の内容は。また、同負担金の内訳は人件費が主か。専門性のある人が支援しているのか。

答　市の社会福祉協議会が行う「生活保護になる前の段階での就労支援」に対する助成です。専門性を有している支援員に対する人件費です。

問　移住・定住・交流推進支援助成金の内容は。

答　移住、定住による地域交流に対する支援金で、内容は婚活支援などです。

今後も、若い人たちの活動を支援する内容を考えていきます。

問　臨時財政対策債が16％減となっている理由は。

答　国が地方の財源不足を補うもので、国の計画が16・3％減額となっており、市でも同程度の減額としました。

今後も、同額程度で続くものと見込んでいます。

問　地方消費税交付金の今後の見込みは。

答　消費税が5％の時は4億円ほどであり、8％になって昨年は7億2千万円。今回は8億8千万円を見込みました。

④自由討議

各専門委員会での審査に続いて、自由討議を行いました。

自由討議は、審査の最終段階で行う採決の前に、自らの考えを整理するための論点整理や、新たな視点の発見につなげるため、必要に応じて行います。

今回、第1と第3専門委員会で行われた内容の一部をご紹介します。

●ふるさと納税について

・非常に良く内外に発信していると感じた。県外から賛同を得て、滝沢に今後期待するとの意味で納税いただいている。

・返礼品が多種にわたり結果的に滝沢のアピールにつながっていると考える。

・滝沢の特産がすぐにイメージされにくいと感じる。返礼品との兼ね合いも必要である。

●住民自治日本一と地区コミュニティセンターについて

・財政構造改革の中で、施設の管理運営費が大分削られている。拙速な削減ではなく、地域と時間をかけて協議していくべきである。

・施設の管理運営方法は地域ごとに差がある。地域づくりの拠点ともなる施設であり、統一的な考え方を市が示し、地域づくりを進める必要がある。

●空き家対策について

・危険な空き家への早急な対応が必要であると同時に、有効活用という面もあると考える。

・危険箇所の対応に重きを置きたい。

自治体の執行権も認められたが、当市では職員間の意識統一マニュアル作成に留まり、取り組みが遅い感がある。

●市道除排雪について

・予算の要求額は、雪が少なかった年ベースではなく、平均した実態に即すべき。また、夏場から地域と連携した検討が必要と考える。

・貸し出す除雪機を増やすなど、単に委託するよりも効率的な事業執行の検討が今後必要と考える。

③歳出審査

歳出の審査は、予算決算常任委員会の中に『専門委員会』を設置し、第1から第3までの専門委員会に分かれ審査しました。

本専門委員会は、普段調査活動を行っている「総務教育常任委員会」「環境厚生常任委員会」「産業建設常任委員会」の委員などで構成し、日ごろの調査活動を踏まえた、より専門的な視点で審査することができます。

歳出は、皆さまから納めていただく大切な税金を、いかに効果的に分配しているのかなど、主に質疑を通じて市の考え方や取り組みなどについて審査しました。

質疑及び答弁の内容の一部をご紹介します。

第１専門委員会

第１専門委員会では、事前書面審査で論点整理をした内容を踏まえ、企画総務部が担当する分野からは「ふるさと納税推進事業」、市民環境部の担当する分野からは「地域コミュニティセンター管理運営事業」などについて、さまざまな視点から質疑を行い、審査しました。

【質疑の内容】

★一般会計　歳出★

問　ふるさと納税推進に関する周知策は。

答　重要な視点であり、さまざまな媒体で周知していく考えです。

問　火葬に要する経費の予算が半額となった理由は。また、全体で300万円の減額となり、市民の心が痛む減額ではないか。別のやり方を考えなかったのか。

答　火葬場使用料が3万円を超えた場合、現在は2万円の補助でしたが、これを1万円に見直したことによる減額です。厳しい財政状況の中での構造改革の一環です。

問　地域自治活動事業の予算が増額となっている理由は。また、地域計画との関連は。

答　交流拠点複合施設（ビッグループ滝沢）に関連する予算が含まれており、新たな備品の設置等です。現在の地域づくり懇談会との関わりも含まれています。

問　滝沢地域づくり活動推進補助事業の予算が増額となっている理由は。また、地域自治活動事業との関連は。

答　地域デザイン補助事業として行ってきましたが、今回、地域自治活動事業と関連のある地域づくり懇談会を進めるための事業補助として増額しました。

問　新成人のつどい開催事業の減額の理由は。

答　成人式で撮影した集合写真の撮影を廃止することとしたための減額です。

新成人同士が限られた時間の中で十分に交流できる場を作ったり、写真撮影したい人同士が自由に撮影できる場を作ったり、今後も実行委員と協議していきます。

【質疑の内容】

★一般会計　歳出★

問　放課後児童クラブの経営状態を平準化できないか。

答　来年度から提出してもらう事業計画書、決算書の様式を統一していく事から始め、今後も調査し検討します。

問　児童クラブによって保育料の差があるか。

答　クラブそれぞれに運営方針があり、統一は難しいと考えます。

問　老人福祉センターの改修内容は。

答　二階へのエレベーターの設置と、利用者の膝痛対策のため、和室を洋室にリフォームします。

第２専門委員会

第２専門委員会では、事前審査で論点整理をした内容を踏まえ、健康福祉部が担当する分野からは「放課後児童健全育成事業」、環境課が担当する分野からは「環境保全対策事業」などについて、さまざまな視点から質疑を行い、審査しました。

問　生活困窮者の自立支援を社会福祉協議会に委託するメリットは。

答　窓口を別にすることで相談しやすくなり、社協の組織力や民生委員のネットワークが有効に活用できます。

問　相の沢温泉の今後の運営は。

答　26年にプロジェクトチームを立ち上げ検討しており、本年夏までに方向性を示します。

問　環境保全対策事業の減額の要因は。

答　新幹線の騒音は問題ありません。

河川の水質調査は、巣子地区の下水道が整備されたためです。

また、放射線測定は、28年以降は業者に発注しないで職員が行うためです。

問　旧最終処分場の事業費が減少しているが、検査を止めるのか。

答　10年間監視し続け、変化が見られないので対象から外しますが、土砂崩れなどは監視します。

★特別会計　歳出★

問　介護給付費が増加した要因は。

答　高齢者の増加に伴い、介護者が増加したことが要因です。

第３専門委員会

第３専門委員会では経済産業部が担当する分野からは「農業、産業振興」、都市整備部が担当する分野からは「道路整備、空き家対策」、上下水道部が担当する分野からは「簡易水道の進ちょく状況、下水道の補助金」などについて、さまざまな視点から質疑を行い、審査しました。

【質疑の内容】

★一般会計　歳出★

問　6次産業化対策事業の内容と販路の拡大は。

答　セミナー等を開催します。10軒の希望者があり、現在3軒ほど商品開発に取り組んでいます。

ビッグループ滝沢の産業創造センターで販路拡大を進めます。

問　新規就農対策事業の所得面での実態は。

答　実態は難しい状態もあり、所得がでていない方もいます。5年で自立できるよう指導しています。

問　産学官連携共同研究事業の内容と連携は。また、雇用につながっているか。

答　市、県立大学、盛岡農業高校の組み合わせで連携しています。雇用につなげるには、人材の活用方法とそれを受け入れる体制づくりが大切です。

問　市道等維持改修事業の今年度の対応は。

答　現地を確認して優先順位を決め、遅れた場合は自治会に説明しながら、日々の維持管理で敏速な対応を考えています。

問　市道除排雪事業の予算は過去の実績の平均値でたてるべきでは。

答　実績では2億円程度必要ですが、今後地域での除雪を工夫できないか検討します。

★特別会計　歳出★

問　下水道事業の補助金の根拠は。

答　雨水の処理対策は公費負担となり、汚水処理には使用料を充てています。